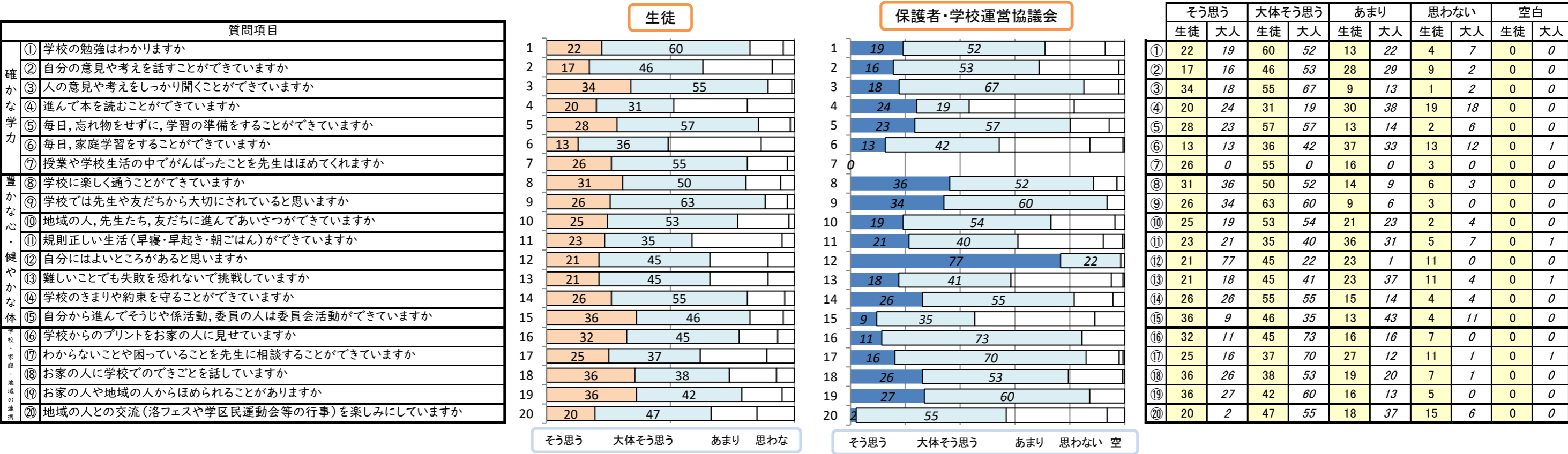


○目指す子ども像（ブロック共通） 夢の実現に向けて、共に楽しく学び、たくましく伸びていく子の育成
重点目標（児童生徒の共通する課題より）（1）コミュニケーション能力を育成するための“言語活動”を充実する。～つながる・深める・伝え合う～ （2）児童生徒が主体的に活躍できる場面を設定し、自己肯定感や自己有用感を高める。
○洛西中学校めざす生徒像 ①「学ぶ楽しさ」と「わかる喜び」を実感し、夢や希望に向けて主体的に学習に取り組む生徒〈知〉 ②自分や仲間の良さや違いを認め尊重し、支え高め合える生徒〈徳〉
③ 命を大切にし、健康で安全な生活を心がけ、明るくいきいきと生活できる生徒〈体〉



「確かな学力」（アンケート番号①～⑦）

「豊かな心・健やかな体」（アンケート番号⑧～⑬）

「学校・家庭・地域との連携」（アンケート番号⑭～⑲）

今回のアンケート結果から見てきたことと、これから意識的に取り組んでいくことを、以下に記載します。

① 基礎的・基本的な知識・技能の定着

アンケート①「学校の勉強はわかりますか」について、「わかる」22％、「だいたいわかる」60％で、82％の生徒が「概ねわかる」と回答しています。この結果は、前年度の後期より4％上昇しました。授業の中で基礎的な知識を習得し、既習の学習内容を活用して課題解決を行ったり、思考したことを表現し伝え交流することで、主体的に学ぶ意欲を高め粘り強く取り組む力を育成するために、今後も授業改善に努めていきます。

② 思考力・判断力・表現力の向上

アンケート②「自分の意見や考えを話すことができていますか」については、「概ねそう思う」が63％で、4割弱の生徒が自信をもって話すことができていないと回答しています。思考力・判断力・表現力等の力を高めるために、自分の考えを組み立てて「書く」ことを行って論理的思考を整理し、発言する場面において臆せず自分の考えを話すことができるように学習活動を行っていきます。

アンケート③「人の意見や考えをしっかりと聞くことができていますか」について、89％の生徒が「概ねそう思う」と回答し、思考力や判断力の土台となる「聞く」ことは、前年度の後期評価と同様に、安定してできるようになってきています。しかし、アンケート④「進んで本を読むことができていますか」については、「概ねそう思う」が51％であり、思考力や判断力を豊かにし、深めることにつなげることについて課題があります。

③ 家庭学習の習慣化

アンケート⑥「毎日、家庭学習をすることができていますか」について、「している」13％、「だいたいしている」36％でした。50％が「あまりしていない」であるので、自らの進路実現・自己実現のために自学する意識を向上させるように働きかけていきたいと思います。

今回のアンケート結果から見てきたことと、これから意識的に取り組んでいくことを、以下に記載します。

① 自己肯定感や自己有用感の育成

アンケート⑧「学校に楽しく通うことができていますか」については、「そう思う」が31％「だいたいそう思う」も50％で、81％の生徒が「概ね楽しく登校できている」と回答しています。前期は昨年度の後期とほぼ変わらず、生徒たちは仲間や教職員と連携しながら、よりよく学校生活を送ってくれています。学校行事が規模を縮小しながらも復活し、学年・学級活動の中で互いの活躍を認め高め合えたことが、自己肯定感を高めることにつながっていると思われます。今後も生徒たちに常に寄り添いながら、仲間づくりを推進し、誰もが居心地の良い、通いたくなる学校を目指して、適切な支援を行っていきます。

アンケート⑨「学校では先生や友だちから大切にされていると思いますか」については、「そう思う」が26％「だいたいそう思う」が63％で、89％の生徒が「概ねそう思う」と回答し、前年度の後期よりも1％の上昇と、アンケート⑫「自分にはよいところがあると思いますか」についても66％で5％上昇しました。生徒が活躍できる場面を計画的につくり、準備を積み重ねて十分発揮できるように支援を継続してきとことが、生徒の自己肯定感や自己有用感をもつことにつながってきたと感じます。

② 基本的生活習慣の確立

アンケート⑪「規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）ができていますか」については、58％の生徒が「概ねそう思う」と、36％の生徒が「あまりできていない」と回答しています。中学生の時期は体の成長が著しいので、定まった時間にバランスの良い食事をとることが大切であることを、学校だよりなどで生徒・保護者に伝えていきます。規則正しい生活のリズムは、体調管理に必要な不可欠であることや、早寝・早起きを励行し脳を活性化させ学習効果を高めるためには、質の良い睡眠時間を確保することを啓発していきます。

今回のアンケート結果から見てきたことと、これから意識的に取り組んでいくことを、以下に記載します。

① 家庭・地域との連携

アンケート⑥「学校からのプリントをお家の人に見せていますか」については、「そう思う」が32％「だいたいそう思う」が45％で、77％の生徒が概ね学校からのプリントを見せています。残り23％の生徒もきちんと見せる習慣ができるように働きかけを強化していきます。

アンケート⑧「お家の人に学校でのできごとを話していますか」については74％の生徒が、⑨「お家の人や地域の人からほめられることがありますか」については、78％の生徒が「概ねそう思う」と回答しています。親子のコミュニケーションは子どもたちの活力になり、自主的な子どもの行動や適切な判断に基づくよい行動に対しては、小さなことでも褒めることで自尊心を高めることにつながります。思春期にある生徒と家庭・地域・学校の大人とのつながりを、より確かなものとするので、生徒の健やかな成長に結びつけていきたいと考えています。

アンケート⑳「地域の人との交流を楽しみにしていますか」については、「そう思う」が20％「だいたいそう思う」が47％の回答でした。感染対策のために中止を余儀なくされる場合もありますが、地域社会につながり、地域の人たちとのふれ合いの場である地域行事を大切にし、地域の方への感謝の気持ちを育み、地域に貢献できる人材の育成につなげていきたいと考えています。

② あいさつの習慣化

アンケート⑩「地域の人、先生たち、友だちに進んであいさつができていますか」については、78％の生徒が「概ねしている」と回答しています。あいさつは人と人のつなげる大切なことなので、今後も継続できるように取り組んでいきます。